

1. 研究目的

工房作業は一般的にその内容が重要視され、効率に目を向ける機会は少ない。特にその収納となると乱雑に片づけられることが多いため、今回の研究ではその収納方法・収納用具を提案する。

2. 調査と分析

まずはじめに現状の工具の分類を再度検証した。分類には工具が何に適しているか（材料からのアプローチ）と何のための工具か（使い方からのアプローチ）の2種類があった。

収納の参考例として、消防車の収納方法を見学した。それによると、収納で最も重要視されるポイントはその視覚性であるということがわかった。また、収納にはそれぞれの道具にあったスペースが初めから用意されており、そこにあてはめるという方法がとられていた。

別の収納方法として、自動車の修理工場の例が参考になった。壁に掛けた板に釘が刺さっており、そこに工具を掛け、その輪郭を白墨で縁取り、そこに合わせて工具をひっかけるという収納方法もあった。

工房の技術員の話では、工具を入れる場所が一目でわからないと、工具をどこに入れていいのか分からなくなり、結局無くなってしまうという問題もあった。

3. コンセプトの立案

上記の調査分析から、コンセプトキーワードは「一目瞭然」とした。工具を使うときにはそれがどこにあるか、また、収納するときにはどこに戻せばよいか、工具が足りないときにはそれがすぐわかることを目標とした。

4. デザイン展開

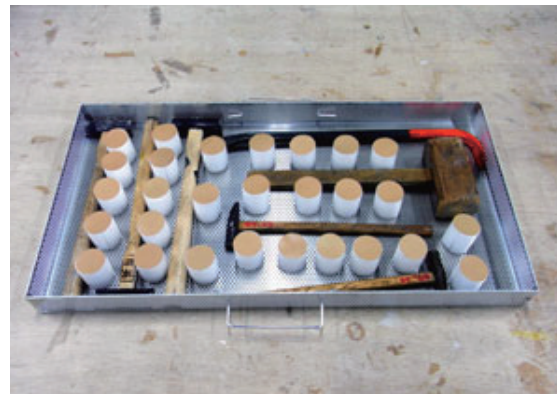
はじめにコンセプトの「一目瞭然」に合わせ、工具の使い方のピクトグラム提案を検討したが、その量も多くまた、複雑であるため断念した。

次に収納ラックの形状を検討した。一般的な工具箱はその深さが10センチほどあり、工具の上に

工具が重なり、下の工具が見えなくなるなど、時には危険な場合もある。そこで、提案する容器は深さを浅くし、その容器を重ねて収納することにした。引き出しの段数は上記の内容を受けて、多くすることにした。

引き出しの材料はパンチングメタルを選択した。理由ははじめから穴があいている板で、なおかつ強度が必要であったからである。その穴に杭状のパーティションを自由に配置できることを目標とした。また、パンチングメタルの使用により、ゴミなどが入った場合でも、その処理が簡単になるという効果も生まれた。

5. 完成図



6. 結論

一番のポイントである引き出し内部の杭状のパーティションがパンチングメタルの穴に入りづらく改善が必要であることが判明した。

また、色による分類も分かりにくくなにか別のアイデアにより解決する必要があることも判明した。

逆にスケールモデルは使用目的にあった形状であるなどのお褒めの言葉も頂き、実際に作って見なければ分からないものの、概ね目標は達成されたかと思う。

7. 参考文献

- 「ものづくり道具のつかい方事典」
峰尾 幸仁
- 「日曜大工で使う道具工具事典」
藤岡 等